

■児童・生徒の学力の状況

〈全国学力・学習状況調査の結果から〉
 ○国語、算数ともに東京都および全国の平均正答率を上回った。本校の中では国語の「自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」、算数の「言葉や数を用いて記述すること」に課題が見られた。
 〈リーディングスキルテストの結果から〉
 ○係り受け解析、照応解決、同義文判定など国語に関わる部分に課題がある。特に同義文判定は偏差値50を下回っている。イメージ同定、具体例同定は昨年度より平均値が高い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○物語文・説明文について児童の興味関心を高める。
 ○児童一人ひとりの理解度が異なり全員が同じペースで学ぶことに課題がある。ペア・グループ活動を通して協働的に学ぶ環境を整える。
 ○教科書の文章や図表を読み取る力を高めるためにタイトルや凡例の確認、軸やラベルの読み取り、データの比較方法などを具体的に指導する。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

〈問題解決型・探究型の学習活動や体験的活動の重視〉
 ○どの教科においても児童が自ら問題を発見し、その解決方法を模索する過程を通じて深い学びを得る体験を積ませる。これにより児童が実社会で直面する複雑な問題に対処する力を養う。
 〈主体的・対話的で深い学び実現に向けての教員研修〉
 ○新しい教育方法や技術を理解し、実践する資質・能力が求められる。ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業を意識して実践していく。また、教員同士で経験や知識を共有し合いながら、自らの教育方法を常に改善し、児童にとってより良い学びの環境を提供できるようにする。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、共通の板書カードを用い「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを全学級で統一して行う。	○教科書の文章や図表から読み取ったことを基にして、分かったことや考えたことを相手に伝える力を高める。そのためにペアや小グループでの活動場면을多く設定する。	○各教科の学びと関連させながら、実際の社会問題や地域の課題に取り組むことで、学びが現実と結び付くようにしていく。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○iCSの推進により学校と地域が連携し、児童の地域への愛着を育む視点を取り入れた授業展開を行う。 ○しみず学びのエリアでめざす子ども像を共有し、板橋のi(あい)カリキュラムに基づき実践する。総合的な学習の時間を中心に環境教育を推進したり、区内の企業や商店街等との連携を図り郷土愛を育めるようにする。	○総合的な学習の時間を中心に、テーマを決めて、探究活動を通じて児童の興味関心を引き出しながら教科横断的な学びを実現する。 ○児童の学習過程を支援し、自己評価や振り返りの機会を提供することで、自ら課題を発見し、解決する力を伸ばしていく。	○オンライン教材やアプリを使って、自主的に課題に取り組ませることで、各自のペースや興味に合わせた個別最適な学びを実現する。 ○ICT機器を活用し、グループで協働作業を行ったり、お互いの考えを共有し、認め合い、高め合うことで協働的な学びを実現する。